



# 石城郡選出

卷之三

## 生雨綠

井上茂作君

# 石川徳壽君

赤坂毅一君

田子健吉君

# 明治二十年

ト嚴然と扣ふるあり、又  
士にあつてはかつての同

192  
193

嗚呼天命頭上に下ろ

改正に平町の幹部顔色ありと  
輿論は遂に理想の實現へ

本紙は前號に於て平町消防組の所謂老練幹部が私情を以て組の統制に免角の隙あるを遺憾事となし之を改革せんとする三萬町民の大なる聲をして一般に呼び掛けたのであるが俄然縣當局に於ては消防規則の改正すべきを痛感し懇々實施の願ひを記せば

小頭は二十歳から五十五歳まで、組頭は二十五歳から六十歳までとする。組員資格に制限を加へ前科者其他に對しては組員とせず組員辭職の際は五日以内に事務引継ぎを

から五十歳まで、昨今問題となつてゐる幹部にして停年制實施の曉、直ちに辭職せねばならぬ彼等は今にして其の機會を發見するこそ賢明の態度であらう（續く）

## 三三種類の種別 庶民金融としての 利子の計算に留意

## 平水道賞與金の内容

から眞實の研究材料  
町當局を嚴重監視の

道擴張工事完成慰勞  
手盛論なるものを前  
道してこそ反對大  
冠せられてゐる  
に該當する名義  
しては台とてな

『え、貴方いゝじやな  
上んなさいよ』  
『う、ううん』

波に秋うか拗

『彼の平南園の一圈を歩く』  
そして淫鬼な風景を描く我  
女はやつと手をほさき  
タ二人は所詮新聞記者ども

『この人理屈家ね』  
『理屈じやないよ本當』

解剖すれば  
ほんとうに  
夜の南町風景

れば各社の連中は夜逃げしなが、詰ひ白粉の香ひと形容合つてゐるがさとも其裏面この体臭が流れ込みましたよ知りて行くもある。

四として四  
らは、非常に浦山れて居つたの胸を蛇の様に両手で  
以上三社の間に突然の退却、口の悪いだけました、僕の鼻に仇

投書歡迎

## 女給生活裏おもて 色カーテンの秘密室

此の記事は誰のことや

色力ーテンの秘密室  
此の記事は誰のことや  
店と女給の名は今度だけ敬意を表することにして此世上の配當を生じ全  
世界的不景氣にもかゝはらずの所有に歸する所もあるまいが兎に角思  
經營で、愛株式會社を創設して頗る慾望を表すことはして此世の繁榮の隆盛なる  
事

(二) ら  
で鏡紡以  
燒雀の鳴さりへとの事知らずスカツと桶削つて  
ヨンを投じてゐる中年になつて頭のろ頂部に秋風訪  
も産出しなければよいと聞れ赤い毛髪の薄らぎ行くも  
／＼であるが余剰價値を產  
むに事かへ愛の結晶(?)で  
盛んに機會を造つてモーシ  
誰れだと思ふ、あてゝこれ  
角大ホク  
部が彼女で  
云ふ譯で  
手に氣に入つたとか何とか  
云つてヨーヒ一代を苦面し  
たり親指に騎らせたりして  
で居る、諸君この二本桙を

